

発展探究ワーク 平和への意識を深めるために

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

発展探究ワーク:平和への意識を深めるために

学びをさらに深掘りし、自分自身の言葉で考えてみましょう。

1. 沖縄における戦争と基地の経験は、私たちにどんなメッセージを伝えているだろうか。

考えるヒント:沖縄戦の被害、「鉄の暴風」、民間人の犠牲、戦後の米軍基地の集中、現在も続く基地負担などを手がかりに、過去と現在をつなげて考えてみましょう。「平和とは何か」「同じことを繰り返さないために何が必要か」という視点から、自分の言葉でまとめてみましょう。

2. 沖縄の歴史は、平和と安全保障のジレンマをどのように示しているだろうか。

考えるヒント:ベトナム戦争時の沖縄が「戦場の後方拠点」となったこと、米軍基地が地域社会や経済に与えてきた影響、基地があることで守られるという考えと、負担や危険が集中する現実の両面に注目してみましょう。「安全保障」と「平和な暮らし」は両立できるのかという視点から考えてみましょう。

3. あなたが沖縄戦を次の世代に伝承するとしたら、何を、どのように伝えたいですか？

考えるヒント:沖縄戦の事実、平和の礎に刻まれた一人ひとりの命、ガマでの体験、語り部の証言など、今回の学習で特に心に残ったことを振り返ってみましょう。その中から、「これだけは次の世代に伝えたい」ということを一つ選び、なぜそれを伝えたいのかを考えてください。さらに、語り、映像、写真、文章、SNS、展示など、自分ならどのような方法で伝えるかまで考えてみましょう。

沖縄の戦争と基地の経験から、平和と安全保障の関係を考え、次の世代に伝えたいことと、自分にできる行動につなげる。

総集編

発展探究ワーク:平和への意識を深めるために

学習指導案 中学生・高校生対象 25分 A4 2枚

映像で学んだ出来事と現在の生活を結びつけ、3問すべてを考える。異なる立場や思いを聞き、自分の考えを文章にし、現地で確かめたい問いにつなげる。

1 本時の目標と準備

①沖縄の戦争と基地の経験から、平和を考える手がかりを見いだす。②平和と安全保障を、生活・人権・経済など複数の視点から捉える。③伝えたい内容と理由、伝える方法を具体化する。

準備:提供スライド、ワークシート1枚、筆記用具。総集編の視聴と基礎的な内容の確認は事前に別途行う。4人程度のグループをつくる。25分は探究ワークの時間とする。

2 本時の展開 25分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5分	資料確認と個人メモ 3問を読み、第1段階に根拠となる出来事・場面をメモする。	映像で確かめたことと、自分の感想を分ける。 発問①「どの出来事や場面が心に残りましたか」 発問②「その場面から、何を考えましたか」 声かけ「まず根拠にしたい場面を一つ書こう」	狙い:考えの根拠を持つ。 評価:具体的な出来事や場面を示せるか。
8分	グループで考えを広げる 3問を順に話し、第2段階に新しい視点や理由をメモする。	1問約2分で、順に考えと理由を伝える。残り2分で、まだ出ていない立場や条件を探す。考えが止まった班には「住民の生活」「安全を守る方法」「伝えたい相手」などの視点を一つ示し、具体的に考えるよう促す。 発問①「別の立場では、何が大切になりますか」 発問②「その考えで見落としていることはありますか」 声かけ「結論をそろえず、理由の違いを聞こう」	狙い:多面的に考える。 評価:異なる立場や条件を踏まえて話せるか。
7分	各自で文章化 3問の解答欄に、根拠・理由を添えて自分の考えを書く。	1問約2分、残り1分で読み直す。抽象的な言葉には具体的な場面を添える。 発問①「その考えは、どの学びに基づきますか」 発問②「なぜ、それを伝えたいのですか」 声かけ「『大切に』の理由を一步詳しく書こう」	狙い:根拠と考えをつなぐ。 評価:内容・理由・方法を説明できるか。
5分	再共有と現地の問い 3分で共有・加筆し、2分で現地の問いと確かめ方を書く。	友達から得た視点と自分の考えの変化に注目する。 発問①「どの見方を加えたいですか」 発問②「現地の何を確かめると、考えが深まりますか」 声かけ「まだ判断できないことも問いにしよう」	狙い:考えを更新し現地へつなぐ。 評価:加筆と問い・方法があるか。

指導上の留意点 3ポイント

①一つの正解や政治的な結論に誘導しない。②住民・軍人・家族などの経験を一括りにせず、異なる思いや葛藤を尊重する。③事実と推察を分け、気持ちの強さや意見の賛否では評価しない。

到達のイメージ

具体的な学習内容を根拠に平和への考えを説明し、異なる立場や葛藤も示す。次の世代に何を、なぜ、どのように伝えるかを考え、現地で確かめたい問いを持つ。

平和への意識を深める授業の支援

3 課題と発問のヒント

提供スライドの3つの視点「歴史を自分ごととして捉える」「多角的な視点を持つ」「未来への行動を考える」を活用する。ヒントは答えとして写させず、場面や資料に戻って考える手がかりにする。

問1 戦争と基地の経験から受け取るメッセージ

問い：沖縄における戦争と基地の経験は、私たちにどんなメッセージを伝えているだろうか。

ヒント：沖縄戦の被害、鉄の暴風、民間人の犠牲、戦後の米軍基地の集中、続く基地負担を手がかりに、過去と現在をつなぐ。「平和とは何か」「同じことを繰り返さないために何が必要か」を、具体的な場面と結びつけて考えさせる。

問2 平和と安全保障のジレンマ

問い：沖縄の歴史は、平和と安全保障のジレンマをどのように示しているだろうか。

ヒント：ジレンマとは、どちらを大切にしても難しさが残る状況。ベトナム戦争期の沖縄の役割や、基地が生活・経済に及ぼす影響を振り返る。安全を守るという考えと、地域に負担・危険が集中する問題の両面を見る。誰の安全か、誰が負担するか、両立する条件は何かを考え、単純な二択にしない。

問3 次の世代への伝承

問い：あなたが沖縄戦を次の世代に伝承するとしたら、何を、どのように伝えたいですか。

ヒント：沖縄戦の事実、平和の礎の名前、ガマでの体験や証言などから伝えたい内容の一つを選ぶ。次に「なぜその内容か」「誰に伝えるか」を考える。語り・映像・写真・文章・SNS・展示など、相手に合う方法を選ぶ。現地訪問前は映像の学びを根拠にし、訪問後に見直す。体験していないことを自分の体験として書かせない。

4 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	資料確認・個人メモ5分 → 対話8分 各自で文章化7分 → 再共有・問い5分	導入期向け。場面を共有してから3問を話す。教員は一つのヒントを示し、全員が自分の言葉で書くよう支援する。
2 併用型	資料確認5分 → 個人で整理7分 グループ共有8分 → 加筆・問い5分	先に自分の考えを書き、異なる考えと比べる。第2段階に新しい立場や理由を加え、解答を見直す。
3 自立型	資料確認5分 → 個人で文章化7分 文章を比較8分 → 書き直し・問い5分	探究に慣れた学級向け。根拠・見落とした立場・伝える方法を互いに確認する。結論の一致は求めない。

5 評価と現地学習への接続

見取る点：①学習内容を根拠にする。②異なる立場や葛藤を考える。③伝える内容・理由・方法を具体化し、共有後の加筆と問いを示す。政治的立場や感情の強さは評価しない。

現地では、平和の礎の刻銘、ガマや資料館の展示、語り手の証言、基地周辺の生活を手がかりに自分の問いを確かめる。訪問予定地に合わせて確認方法を選び、話せる範囲を尊重する。事後は伝えたい内容と方法を見直す。

出典：提供スライド「発展探究ワーク：平和への意識を深めるために」「考えるヒント」。

沖縄平和学習映像教材 総集編
発展探究ワーク:平和への意識を深めるために

年 組 番 名前 日付

25分で3問すべてを考えます。2段階で整理し、その後に各問いの解答を書こう。

第1段階 学んだ事実や心に残った場面を整理しよう

映像や資料から根拠にしたい出来事・場面をメモしよう。問番号を添えると整理しやすくなります。

第2段階 意味や別の立場から考えられることを整理しよう

何を大切にしたいか、別の立場ではどう見えるか、未来に何を伝えたいかをメモしよう。

ここからは、具体的な学びと理由をつないで自分の考えを書こう。共有で得た見方も加えよう。

問1 戦争と基地の経験から受け取るメッセージ

沖縄における戦争と基地の経験は、私たちにどんなメッセージを伝えているだろうか。

ヒント:過去と現在をつなぎ、平和とは何か、繰り返さないために何が必要かを考える。

問2 平和と安全保障のジレンマ

沖縄の歴史は、平和と安全保障のジレンマをどのように示しているだろうか。

ヒント:誰の安全を守り、誰に負担が生じるか。生活・経済・人権も含めて考える。

問3 次の世代への伝承

あなたが沖縄戦を次の世代に伝承するとしたら、何を、どのように伝えたいですか。

ヒント:伝えたい内容を一つ選び、理由・相手・方法を考える。

現地で確かめたい問いと確かめ方

どこで、何を見たり聞いたりすると確かめられそうですか。

資料:提供スライド「発展探究ワーク:平和への意識を深めるために」「考えるヒント」。